

食第K00452号
2020年6月23日

試験検査成績書

NanoZone Japan 合同会社 様

一般社団法人東京食品衛生協会
東京食品技術研究所
〒175-0083 東京都豊島区豊島 1-10-10

ご依頼の試験品の試験検査結果は以下のとおりです。

受付日	2020年6月9日
試験品	NanoZone Solution
付記事項	
検査内容	抗菌効果試験
備考	供試菌:大腸菌、黄色ブドウ球菌

試験検査結果

試験方法	1. 供試菌 大腸菌 (<i>Escherichia coli</i> NBRC 3972) 黄色ブドウ球菌 (<i>Staphylococcus aureus subsp. aureus</i> NBRC 12732) 2. 試験菌液の調製 供試菌を普通寒天培地に移植し 35℃で 24 時間培養後、1 コロニーを普通 ブイヨン培地に接種し、35℃で 18 時間振とう培養した。この菌液を滅菌リ ン酸緩衝希釈水を用いて希釈調製した。 3. 試験操作 試験品 10mL に、上記 2 で調製した試験菌液 0.1mL を添加し、35℃で 24 時間静置培養した。静置培養後の生菌数を標準寒天培地を用いて測定し した。なお、空試験として、1/500 濃度普通ブイヨン培地 10mL に試験菌液 0.1mL を添加したものを同様に試験した。		
試験結果	供試菌	大腸菌	黄色ブドウ球菌
	初発菌数	240,000/mL	380,000/mL
	24 時間経過後の菌数		
	試験品	0/mL	0/mL
	空試験	12,000,000/mL	370,000/mL

*本成績書を転載する場合は当研究所の承認を受けてください。

□試験項目 抗菌効果試験〈大腸菌／黄色ブドウ球菌〉

□検査機関 一般財団法人 東京食品衛生協会 東京食品技術研究所

□試験品 ナノゾーンソリューション


□試験方法 ナノゾーンソリューション 10mLに対し、テスト菌の培養液
0.1mLを添加（大腸菌：24万個、黄色ブドウ球菌：38万個）
35℃で24時間静置培養後の菌数を測定

▼ 試験結果

供試菌	大腸菌	黄色ブドウ球菌
初発菌数	240,000 / mL	380,000 / mL

24時間後の菌数		
試験品	0 / mL	0 / mL
空試験	12,000,000 / mL	370,000 / mL


24時間後、空試験（なにもしなかったもの）では
大腸菌数は大幅に増加、黄色ブドウ球菌は微減少であるのに対し
ナノゾーンソリューションの溶液では、それぞれ0であった



食第K00389-1号
 2020年6月5日

試験検査成績書

NanoZone Japan合同会社 様



一般社団法人東京食品衛生協会
 東京食品技術研究所
 〒175-0083 東京都取組1-1-10

ご依頼の試験品の試験検査結果は以下のとおりです。

受付日	2020年6月2日
試験品	NanoZone Solution
付記事項	
検査内容	マウスに対する急性毒性試験(経口)
備考	

試験検査結果

試験方法	①投与液の調製 試験品に精製水を加えて20%懸濁液としたものを投与用試料とした。 ②使用動物および投与方法 マウス(ddY系、雄、5匹)を投与前4時間絶食させ、経口ゾンデ針を用いて胃内に1回強制投与した。投与量は体重1kg当たり試験品4g相当量。 ③観察方法と期間 投与後の異常の有無について、24時間観察した。
観察結果	マウスに異常を認めない。

*本成績書を転載する場合は当研究所の承認を受けてください。

□試験項目 マウスに対する急性毒性試験(経口・24時間)

□検査機関 一般財団法人 東京食品衛生協会 東京食品技術研究所

□試験品 ナノゾーンソリューション

□試験方法 01. 投与液を調製
 試験品に精製水を加えて20%懸濁液としたものを投与用試料とした。

02. 使用動物および投与方法
 マウス(ddy系・雄・5匹)を投与前4時間絶食させ、
 経口ゾンデ針を用いて胃内に1回強制投与した。
 投与量は体重1kgあたり試験品4g相当

03. 観察方法と期間
 投与後の異常の有無について24時間観察した。

▼ 試験結果

マウスに異常を認めなかった